

# 家庭科学習指導案

5年3組 35名 指導者 松田 華奈

本授業は、以下の検証を行うものである。

マスクケースの試し作りの振り返りを基に、よりよい製作計画にするための工夫について交流することは、家庭科における「主体的に学習に取り組む態度」に着目した授業改善の手立てとして有効であったか。

## 1 題材 ソーイング はじめの一步

## 2 目標

- (1) 製作に必要な材料や手順，製作計画，手縫いによる目的に応じた縫い方とボタンの付け方及び用具の安全な取り扱い方について理解するとともに，それらに係る技能を身に付けることができるようにする。 【知識及び技能】
- (2) 生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画及び製作，材料（布）の使い方について問題を見いだして課題を設定し，様々な解決方法を考え，実践を評価・改善し，考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができるようにする。 【思考力，判断力，表現力】
- (3) 家族の一員として，生活をよりよくしようと，生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について，課題の解決に向けて主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，生活を工夫し，実践しようとする。 【学びに向かう力，人間性等】

## 3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 製作に必要な材料や手順が分かり，製作計画について理解している。 ○ 手縫いによる目的に応じた縫い方とボタンの付け方及び用具の安全な取扱いについて理解しているとともに，適切にできる。	○ 生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画について問題を見いだして課題を設定し，様々な解決方法を考え，実践を評価・改善し，考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○ 家族の一員として，生活をよりよくしようと，生活を豊かにするための布を用いた製作について，課題の解決に向けて主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，生活を工夫し，実践しようとしている。

## 4 題材について

### (1) 題材の位置とねらい

本題材は，内容「B衣食住の生活」の(4)「衣服の着用と手入れ」アの(イ)と，(5)「生活を豊かにするための布を用いた製作」アの(ア)，(イ)である。生活を豊かにするための布を用いた製作について理解し，適切にできることをねらいとしている。子供たちは裁縫用具を初めて使うため，使用時のきまりや使い方を確認する。

また，本題材の学習のゴールを「手縫いやボタンのつけ方について学んだことを生かして，安全に気を付けて，オリジナル小物を作ろう」とした。子供たちが学んだことを生かして家庭実践する場を設けている。題材の導入部で，子供に日常生活から見いだした問題や学習のゴールを意識させ，追究したい課題を設定させる。その後，課題を解決するための活動を進めることで，自分が使う場面を想定したり思いや願いを抱いたりしながら縫い方を工夫し製作するなど，自分の衣生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度の育成を目指す。

### (2) 子供の実態

本学級の子供たちは，新しく始まった家庭科の学習に興味をもち，意欲的に取り組んでいる。これまでの家庭科の学習で，家族との1日の生活を振り返り，家庭生活を支える仕事について問題を見いだして課題を設定し，解決方法を考え実践を評価・改善する活動に取り組んできた。自分の1日の生活を見つめる活動では，自分のことを優先し，家族の一員として協力する時間が少ないことなどに気付く姿が見られた。今回，裁縫に関するアンケートを実施したところ，家庭で裁縫を経験している子供は少なく，裁縫に必要な用具の使用について不安を感じている子供が多かった。

本題材は，手縫いやボタンの付け方，小物の製作計画について学んだことを生かして小物を作

る活動を通して、基礎的な裁縫の仕方や、用具の安全な使い方を身に付ける学習である。まず、裁縫に必要な用具の安全な取扱い方について実習を通して理解し、適切にできるようにする。その後、小物を作るために、製作手順や製作計画について実感を伴いながら理解をすることができるようにする。これらの学習を通して、少しずつ実習に慣れながら確実に技能を習得し、子供が自信をもって小物の製作に取り組み、学んだことを生かして製作することの喜びや達成感を味わうことができるようにしたい。

### (3) 指導上の留意点

本題材では、製作過程において、縫う部分に応じた縫い方であるかなど、手順の根拠について理解することができるようにする。そうすることで、製作計画を見直す活動の際に、子供たちが自ら製作品の必要性に応じて縫う場所や順序を工夫することができるようにする。また、これまでの生活で縫う経験が少ない子供が多いという実態を踏まえ、必要に応じて製作物の見本や製作の順序に応じた段階的な見本などを準備することで、子供が自分で課題を解決し、製作する喜びを味わいながら手縫いなどの基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができるようにする。さらに、用具の取扱いについては、製作の準備から片付けまでを子供一人一人が責任をもって安全に行うことができるようにすることで、危険防止や安全点検の確認を習慣化し、学校でも家庭でも安心して安全に手縫いやボタン付けを行うことができるようにする。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、用具の共有は行わず、授業の前後に手洗い、消毒を行うようにする。

## 5 指導計画（総時数 10 時間）

小題材	主な学習活動	時間
できること 針と糸を使って	<b>家庭で</b> 手縫いやボタンの付け方について問題を見いだす。	
	1 手縫いやボタンの付け方、生活を豊かにする小物の製作計画及び製作、布の使い方について問題を見だし、課題を設定する。	1
チャレンジ 手縫いに	2 手縫いやボタン付けに必要な用具の安全な取扱いについて知る。玉結び、玉どめの役割を知り、玉結び、玉どめの練習をする。	1
	3 いろいろな手縫いの特徴を知り、縫う部分や目的に応じて適した手縫いを選ぶ必要性について考え、いろいろな手縫いの練習をする。	1
生活に生かそう 手縫いのよさを	4 ボタンを付ける必要性について考え、丈夫に付けるための付け方を知り、練習をする。	1
	5 マスクケースの製作計画を立て、試し作りを行う〔共通〕。	1
	6 自分が立てた製作計画について交流し、評価・改善する。	1 (本時)
	7 自分が立てた製作計画を基に、実際に小物を製作する。	1
	8 マスクケース製作の振り返りを基に、自分が作りたい小物の製作計画を立てる〔個人〕。	1
	9 個人での小物の製作を行い、実践を振り返り、評価・改善する。	1
	10 実践発表会を行い、共通での小物製作、個人での小物製作を振り返り、製作計画や製作、使用した感想などを発表する。	1

## 6 本時（6 / 10）

### (1) 目標

丈夫で見た目がよいマスクケースの製作計画を考え、工夫することができる。

### (2) 評価規準

- 丈夫で見た目がよいマスクケース製作に関する課題の解決に向けて、よりよい方法を考え、製作計画を工夫している。 【思考・判断・表現】
- 丈夫で見た目がよいマスクケース製作に関する課題の解決に向けて、主体的に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

### (3) 指導に当たって

「つかむ・見通す」過程において、丈夫で見た目がよいマスクケースという観点から出た、「先生にぴったりである」、「丈夫である」という「快適」の視点を確認することで、本時を通して子供たちが「快適」という見方・考え方を働かせることができるようにする。

「調べる・確かめる」過程において、事前にタブレットで試し作りの製作過程を撮影した動画を活用することで、根拠を基に自分の考えを発表し、交流を通して計画を評価・改善することが

できるようにする。

「生活に生かす」過程において、グループ交流前後の自分の考えを比較することにより、子供たちが自分の考えを評価・改善し、自信をもって次時の製作活動に臨むことができるようにする。

(4) 本時の展開 [ ] 子供の意識 ○ 指導の手立て ※ 評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	5	1 前時までの学習内容を振り返る。 ( ・ 長く大切に使えるように、簡単には壊れないように丈夫に作りたいな。 ) 2 本時のめあてを確認する。 よりよい製作計画にするためには、どのような工夫をするとよいだろうか。	○ 「びったり」、「丈夫」という「快適」に関する視点を確認することで、本時を通して、子供たちが「快適」という見方・考え方を働かせながら活動することができるようにする。 ○ 交流の視点について確認することで、丈夫で見た目がよいという目的について意識しながら交流を行うことができるようにする。
調べる・確かめる	3 5	3 学習の流れを考える。 ( ・ グループで交流した後に、もう一度自分で考えてみたいな。 ) ( ・ 縫う順序について不安があるから、友達の考えを聞いてみたいな。 ) 4 自分が考えた製作計画について交流を行う。 ( ・ 試し作りでマスクの大きさびたりに布を切ってしまったら出し入れしにくかったので、準備する布の大きさを改善したよ。 ) ( ・ 何度かマスクを出し入れしたら縫い目がほどけてしまったから、友達の考えを聞いてみたいな。 ) 5 交流を基に、自分の製作計画を評価・改善する。 ( ・ ボタンが付けにくかったけれど、縫う順番を工夫することで解決できそうだな。 ) 6 学級全体に知らせたい工夫について発表する。 ( ・ 丈夫に作るためには、縫い始めと縫い終わりを何度か縫うことで、糸が取れにくくなって、長く大切に使うことができそうだな。 )	○ 試し作りで上手くいかなかった点や助言が欲しい点についても積極的に発表することで、発表者も聞き手も話合いに意欲的に参加することができるようにする。 ○ 他者の思いや考えを聞いたり、自分の考えを分かりやすく伝えたりして製作計画について評価改善を行うことで、様々な解決方法を考える力を育み、よりよい方法を判断・決定することができるようにする。 ○ どのような工夫を行ったのか、動画や実物を活用しながら説明したり、根拠を基に記入したりすることで、製作計画の工夫について、実感を伴って理解することができるようにする。 ※ 丈夫で見た目がよいマスクケース製作に関する課題の解決に向けて、よりよい方法を考え、製作計画を工夫している。(ワークシート)【思考・判断・表現】
生活に生かす	5	7 本時のまとめをする。 よりよい製作計画にするためには、目的に応じてぬい方を工夫したり、効率や安全を考えてぬう順番を工夫したりするとよい。 8 本時の学習について振り返る。 ( ・ 前の計画よりも、自信をもって作ることができそうだ。準備する布の大きさが決まったから、週末に行こう。 ) ( ・ もうすぐ父の日だから、プレゼントとしてお父さんの分まで作ってみようかな。 )	○ 袋作りについての学習にもつながるゆとりや返し縫いについても取り扱うなど、2学年間の内容を段階的に繰り返し扱うことで、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に定着させることができるようにする。 ※ 丈夫で見た目がよいマスクケース製作に関する課題の解決に向けて、主体的に取り組もうとしている。(タブレットデータ)(ワークシート)(行動観察) 【主体的に学習に取り組む態度】 ○ 次時は、自分が立てた製作計画を基に小物作りを行うことを伝えることで、子供たちの意欲を高めることができるようにする。